

図の上部には、次の文がある。

中間こん太郎

市川左團次

役人せん平

大谷門蔵

門ばん音内

尾上尾登五郎

わしづか金藤次

中村翫雀

門番よし平

澤村由蔵

役人松四郎

尾上梅五郎

中間かん平

尾上菊五郎

菊五郎

〽へイ名は勘ちゃんと申升ふだん大部屋

で友だちが勘ちゃん／＼とい／＼升からッイ

勘ちゃんと申升たが実八勘平と申

升て以前八去るお屋敷で百五拾石の

御扶持をもらひひこし元というをしたのが

身のそまつ能くいふ事だが猪くつたむく

ひで久しく山崎の与一兵衛といふ百性の

ところにかゝつており升たが嶋の財布と

おなじぎれの親仁の布子を質に遣り

手めへがころしたころさぬと姑婆と

いじり合自腹を切てうけ戻す金に

こまつて随徳寺とう／＼今しやあ渡り

中間あたまが少々はげわんでもまだ三十に

ならず廿九才と三ヶ月名八勘平と申升

左団次

〽へイわつちやア鯨権と申升元私子の親分八田

町のすしやでムリ升からそれですし権と申升

そのわけと申升八産れ八大和の上市村弥左

衛門といふしミつたれな百性の子でムリ升が背

いの高いとかつぶくのいゝのでせんど代官所へ何兵と

やらに撰ミ出され陣羽織までもらひ升たが武

士になるとまさかの時腹を切るのがいたいから金吾

といふを身代りに出してやうく御めんを願ひ鮎やの

子分の方く部のやをわたつてあるき升

翫雀

せつしやがせいめいでムるかなイヤ拙者では

ない身どもそれがしわたくしわつちの産

れは三浦で上総部屋へは入り升迄

唐天ぢく八わたりませぬが

奉行やしきを方くわたり娘子

供が持遊びの双六より外賽の

目をしらぬわしづか金藤治も

これなる二人にいのり附

られ狐へすこし手

を出したが一本か

り二本かり九本

尻尾を出し升て

こりくいたし升た